

第3回「関西広域環境保全計画策定検討委員会」議事概要

- 1 日時 : 平成23年10月20日(木) 9:30~11:30
- 2 場所 : 滋賀県庁東館7階大会議室(大津市京町四丁目1-1)
- 3 出席者 : 津野会長、浅岡委員、井上委員、篠崎委員、高村委員、中瀬委員
- 4 内容
 - (1) あいさつ
関西広域連合 広域環境保全局長 上山哲夫(滋賀県琵琶湖環境部次長)
 - (2) 議事 「関西広域環境保全計画(素案)」について

主な意見

○「はじめに」および「第1章 概況」について

- ・パブリックコメントを踏まえて、森林のことも現状と課題の中の地球温暖化のところに記載されているが、将来像においても1項目ぐらい森林資源のことを書いておいたほうが良いのではないかと。また、生物多様性のところにも、森林と農地の機能について何らかの言及が必要ではないかと。
- ・排出量の評価のところ、データを見る限り産業部門は着実に下がっているということなので、今後もそういった自主的な取り組みの推進が求められるといった解説を入れていただきたい。
- ・排出量の部門別のシェアに関しては、何らかの形で図やグラフ、表なりで出していくことが望ましいのではないかと。
- ・全般的な全国の動向あるいは構成府県の動向を見ると、産業部門の排出量は確かに減っているが、エネルギー原単位、排出原単位悪化の傾向が見られるので、確認をしていただきたい。部門ごとのエネルギー効率あるいは排出原単位の動向を見ると、一体どこで努力をしなければいけないかということがわかってくる。
- ・家庭部門においては増加傾向にあるが、その要因というのは何かということを書く必要がある。特に都市部の戸数、世帯数の増加が大きくなっており、そこも含めて排出動向の要因を書いていただくことが必要ではないかと。
- ・府県ごとのポテンシャルについてもかなりいろいろなデータが出てきている。各省庁のデータがあると思うので、資料としてどれぐらいのポテンシャルが実際あるのかというのを見ながら支援していくことが有益ではないかと思う。
- ・長期的にはかなり大規模な排出削減が必要だということは明確に示しておくことが必要ではないかと。
- ・温暖化に関連する影響として、最近の熱帯夜の増加や真夏日の増加といったようなものがあるので、具体例として盛り込んでいただくのがよいのではないかと。
- ・特に関西圏では、琵琶湖・淀川流域のことを避けて通れないので、琵琶湖・淀川流域についても少し具体的に書いてもよいのではないかと。
- ・家庭部門、業務部門の排出量の削減が課題のように見せるということについてどうかと思う。産業部門も含めて全体としてどう減らすかということ、みんなで認識しないとイケない。

- ・放射能問題等、非常に深刻であり、適応策を考えなければならないという段階に入っている。そういう意味で環境という観点からも、こうした情報がしっかり共有されていくということが、本当に重要だと思う。

○「第2章 関西が目指すべき姿」について

- ・「次代の環境を担う人材の宝庫」と「安心・安全で歴史と文化の魅力ある街」の2つを書いているが、この模式図に比べて非常に狭い意味の人材となっている。街づくりは人が担っていくわけなので、やはりこの模式図のほうが大事にすべきではないかと思う。先に安心・安全の街というのを挙げて、それからそれらも含めて広い意味での環境を担うというようにしてはどうか。
- ・産業活動は低炭素化だけでなく、省エネやエネルギーの効率的利用との2つをセットで記載していただきたい。
- ・産業活動の低炭素化が進むというのと経済活動の活力というのが「つつも」と書かれていることで、相反するような印象を与えてしまう可能性があるように思う。
- ・パブリックコメントでも関西産業ビジョンとの整合性を図ることが言われているが、双方ですりあわせが少し見えにくいと思う。こちらの「簡素でも豊かさが」という言葉は、むしろ産業ビジョンの「スローで豊かな生活」という言葉のほうがふさわしいのではないかと思う。産業ビジョンのほうにもこちらの記述を反映するなどの調整が必要。

○「第3章 施策の展開」および「第4章 計画の進行管理」について

- ・オフィス系での省エネ活動とかエコオフィス運動ということの記載については大賛成で、こういった観点で進めていただきたい。あと、プロセス系の産業系については、自主的な取り組み、自主的な分析ということに委ねざるを得ないところがある。
- ・今、我々が心配しているのがノートリアとアライグマである。これは今手を打っておかないとネズミ算式に増えていく。時期を失すると、対応の仕方が全く変わってくる。
- ・関西は「共生」という概念をずっと持ち続けた地域である。森林、田畑、そして今の生き物の「共生」という概念を現状で書かれるとよい。
- ・再生可能エネルギーの導入促進については、第Ⅱフェーズからということだが、これも第Ⅰフェーズからやるというふうにお書きいただくほうがよいのではないか。第Ⅰフェーズの中で、関西広域連合あるいはそれぞれの府県のところで、1つは持っている賦存量について明らかにしていただき、その上で何が導入の課題なのかということを持ち寄って、関西広域連合として何ができるのかということをも第Ⅱフェーズにつなげていただきたい。
- ・バイオマスについても随所に記載しているが、温暖化の問題と資源循環のところとで同じようにバイオマスを捉えており、ちょっとそれぞれが切れているような気がする。統合というか、まとめてその中山間地域全体をどうしていくのかというような課題の中で捉えることができないのかと思う。